

Autodesk ネットワーク管理 者用ガイド 2013

Autodesk®

リビジョン 4, 2012 年 3 月 13 日.

© 2012 Autodesk, Inc. All rights reserved. Autodesk, Inc.社の許諾を得ることなく、本ドキュメントのいかなる部分といえども、その目的を問わず、いかなる形式または手段でも複製することは禁じられています。

本ドキュメントに記載される特定のマテリアルは、著作権所有者の許諾を得た場合に限り、再版されます。

商標

123D、3ds Max、Algor、Alias、Alias (swirl design/logo)、AliasStudio、ATC、AUGI、AutoCAD、AutoCAD Learning Assistance、AutoCAD LT、AutoCAD Simulator、AutoCAD SQL Extension、AutoCAD SQL Interface、Autodesk、Autodesk Homestyler、Autodesk Intent、Autodesk Inventor、Autodesk MapGuide、Autodesk Streamline、AutoLISP、AutoSketch、AutoSnap、AutoTrack、Backburner、Backdraft、Beast、Beast (design/logo) Built with ObjectARX (design/logo)、Burn、Buzzsaw、CAICE、CFdesign、Civil3D、Cleaner、Cleaner Central、ClearScale、Colour Warper、Combustion、Communication Specification、Constructware、Content Explorer、Creative Bridge、Dancing Baby (image)、DesignCenter、Design Doctor、Designer's Toolkit、DesignKids、DesignProf、DesignServer、DesignStudio、Design Web Format、Discreet、DWF、DWG、DWG (design/logo)、DWG Extreme、DWG TrueConvert、DWG TrueView、DWFx、DXF、Ecotect、Evolver、Exposure、Extending the Design Team、Face Robot、FBX、Fempro、Fire、Flame、Flare、Flint、FMDesktop、Freewheel、GDX Driver、Green Building Studio、Heads-up Design、Heidi、Homestyler、HumanIK、IDEA Server、i-drop、Illuminate Labs AB (design/logo)、ImageModeler、iMOUT、Incinerator、Inferno、Instructables、Instructables (stylized robot design/logo)、Inventor、Inventor LT、Kynapse、Kynogon、LandXplorer、LiquidLight、LiquidLight (design/logo)、Lustre、MatchMover、Maya、Mechanical Desktop、Moldflow、Moldflow Plastics Advisers、Moldflow Plastics Insight、Moldflow Plastics Xpert、Moondust、MotionBuilder、Movimento、MPA、MPA (design/logo)、MPI、MPI (design/logo)、MPX、MPX (design/logo)、Mudbox、Multi-Master Editing、Navisworks、ObjectARX、ObjectDBX、Opticore、Pipeplus、Pixlr、Pixlr-o-matic、PolarSnap、PortfolioWall、Powered with Autodesk Technology、Productstream、ProMaterials、RasterDWG、RealDWG、Real-time Roto、Recognize、Render Queue、Retimer、Reveal、Revit、RiverCAD、Robot、Scaleform、Scaleform GfX、Showcase、Show Me、ShowMotion、SketchBook、Smoke、Softimage、Softimage|XSI (design/logo)、Sparks、SteeringWheels、Stitcher、Stone、StormNET、Tinkerbox、ToolClip、Topobase、Toxik、TrustedDWG、T-Splines、U-Vis、ViewCube、Visual、Visual LISP、Voice Reality、Volo、Vtour、WaterNetworks、Wire、Wiretap、WiretapCentral、および XSI は、Autodesk Inc.社および/またはその子会社および/または関連会社の、米国およびその他の国における商標あるいは登録商標です。

その他すべての商標名、製品名、商標は各所有者の資産です。

免責事項

本ドキュメントおよび記載される情報は AUTODESK, INC. 社により、「現状のまま」で提供されるものとします。AUTODESK, INC. 社は、明示、黙示を問わず、特に所有権の非侵害、商品性又は特定目的への適合性についての黙示的保証を含め、その他本ドキュメントおよび記載される情報に対する一切の保証をいたしません。

目次

| | | |
|--------|------------------------------|----|
| 第 1 章: | ネットワーク管理と配置 | 1 |
| | 配置を理解する..... | 1 |
| | 配置を計画する..... | 2 |
| | 配置の準備作業を確認する..... | 2 |
| | インスレーションの種類を決定する..... | 3 |
| | ライセンス サーバ モデルを決定する..... | 4 |
| | 個々の製品を環境設定する..... | 5 |
| | Service Pack を含める..... | 5 |
| | ネットワーク共有を作成する..... | 7 |
| | 配置を作成する..... | 7 |
| | 新しい配置を作成する..... | 7 |
| | 配置を修正する..... | 9 |
| | ユーザに管理イメージを通知する..... | 10 |
| 第 2 章: | 代替配布法 | 11 |
| | 配置方法の概要..... | 11 |
| | バッチ ファイルを使用してプログラムを配置する..... | 11 |

| | |
|--|----|
| サンプル インストール バッチ ファイル..... | 12 |
| バッチ ファイルを実行する..... | 14 |
| グループ ポリシーを使用して配置を実行する..... | 14 |
| グループ ポリシーを使用してコンピュータに配置を割り当てる..... | 16 |
| グループ ポリシー配置を確認する..... | 18 |
| Microsoft SCCM を使用して製品を配置する..... | 19 |
| SCCM のソース フォルダを設定する..... | 20 |
| SCCM ソフトウェア配布パッケージを作成する..... | 20 |
| ディスク イメージ作成ソフトウェアを使用して製品を配布する..... | 22 |
| マルチシート スタンドアロン製品を配布する..... | 23 |
| ネットワーク ライセンス製品を配布する..... | 23 |
| マスター イメージを復元する..... | 24 |
| マスター コンピュータをクリーンアップしてオペレーティング システムを復元する..... | 25 |

第 3 章:

| | |
|---|-----------|
| インストールに関する質問..... | 26 |
| ライセンスに関する質問..... | 26 |
| スタンドアロン ライセンスとネットワーク ライセンスの違いは何ですか?.. | 26 |
| ネットワーク ライセンス バージョンのソフトウェアを使用する利点は何ですか?..... | 26 |
| SAMreport-Lite とは何ですか?..... | 27 |
| 配置とネットワークに関する質問..... | 27 |
| 配置はどこに格納すればいいですか?..... | 27 |
| 管理イメージにすべての製品を選択するのはどのような場合ですか? また、後で製品を追加できますか?..... | 27 |
| ユーザのコンピュータの設定に関連付けられるプロファイルとは何ですか?.. | 28 |
| Service Pack を追加したり合成するとどうなりますか?..... | 28 |
| Service Pack が使用しているソフトウェアで利用可能であるかはどこで確認できますか?..... | 28 |
| MSP ファイルはどうやって解凍しますか?..... | 28 |
| ファイアウォールに対して、ネットワーク ライセンス サーバをどのように環境設定すればいいですか?..... | 29 |
| アンインストールとメンテナンスに関する質問..... | 29 |
| 既定のインストールの内容をどのように確認できますか?..... | 29 |
| 機能を追加または削除するときに、インストールフォルダを変更できますか?.. | 29 |

| | |
|--|----|
| 製品をインストールした後に、ツールとユーティリティをどのようにインストール できますか?..... | 29 |
| 製品を修復ではなく再インストールするのはどのような場合ですか?..... | 29 |
| 製品を再インストールする場合、製品メディアは必要ですか?..... | 30 |
| ソフトウェアをアンインストールすると、システムにどのようなファイルが残ります か?..... | 30 |

第 4 章:

| | |
|--------------------------------|----|
| 用語集 | 31 |
| Service Pack | 31 |
| アクティベーション | 31 |
| インストレーション イメージ | 31 |
| 管理イメージ | 31 |
| 言語パック | 31 |
| 言語ファミリ | 31 |
| サイレント モード | 32 |
| ネットワーク ライセンス インストレーション | 32 |
| 配置 | 32 |
| パッチ | 32 |
| ホット フィックス | 32 |
| マルチシート スタンドアロン インストレーション | 32 |
| ライセンス転送ユーティリティ | 32 |

ネットワーク管理と配置

1

配置を理解する

配置は、複数のコンピュータに1つまたは複数のオートデスク製品を標準の環境設定でインストールする効果的な方法です。インストレーション プロセスに必要なファイルは、ネットワーク上のすべてのユーザが共有アクセスできるフォルダ内の管理イメージに格納されます。製品をインストールするには、ユーザは配置フォルダに移動し、インストーラのショートカット(.LNK ファイル)をダブルクリックします。

注: このガイドで説明するインストーラは、Windows オペレーティング システムにのみ該当します。ただし、いくつかの概念と手順は、Linux または Mac OS X ネットワーク上のオートデスク製品の管理者にとっても有用です。

配置に関するいくつかの基本的な事項を次に示します。

- 配置は、ネットワーク ライセンスまたはマルチシート スタンドアロン ライセンス用に作成できます。
- 同じフォルダに異なる環境設定の複数の配置を格納でき、これらの配置は同じ管理イメージ(インストレーション ファイルのセット)を共有できます。
- 各配置は、1つの言語の製品をインストールします。複数の言語の製品をインストールするには、各言語に対して個別の配置が必要となります。
- 既存の配置に基づいて、異なる環境設定で別の配置を作成できます。
- 配置は、各インストレーションのログファイルを作成するように環境設定できます。ネットワーク管理者は、問題解決のためにこれらのログファイルを使用できます。
- 各配置では <deployment name>\SMS_SCCM scripts というサブフォルダが作成されます。このフォルダには Microsoft Systems Management Server(SMS)および System Center Configuration Manager(SCCM)を使用した配置の配布に関する2つのドキュメント、SMS_SCCM_ReadMe.txt および <配置名>_SCCM.txt が格納されています。

言語パックを配置する

AutoCAD ベースの製品、Inventor および 3ds Max は、個別の言語パックを使用して、インストールした製品に1つまたは複数の言語バージョンを追加できます。

それぞれの言語パックは、特定の言語のユーザ インターフェイス文字列、メッセージ テキスト、およびドキュメントを提供し、製品ソフトウェアは含まれません。特定の言語バージョンを複数の同一オートデスク製品に配布するには、その言語パックが含まれるインストーラを使用して、言語パック配置を作成できます。複数の言語または異なる製品に言語パックを配置する場合は、各コンピュータ上に複数の言語パックをインストールするバッチ ファイルを作成できます。

配置を計画する

配置の準備作業を確認する

このチェックリストには、ネットワーク配置を作成する前に、完了しておく準備作業や、収集する情報、決定すべき事項を記載しています。

ヒント : 製品の環境設定の詳細など配置設定を確認する場合は、テスト用の配置を作成できます。配置の作成プロセスを習得した後に、テスト用の配置を削除できます。

表 1: 配置のチェックリスト

| | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> | インストーラで [動作環境] リンクをクリックして、動作環境を確認します。ネットワーク、サーバ、クライアント コンピュータがこれらの動作環境を満たしていることを確認します。 |
| <input type="checkbox"/> | 購入したライセンスの種類の一般的なインストール手順を理解します。ネットワーク ライセンスの配置では、ライセンス サーバー名と、ライセンス購入時に指定したライセンス サーバー モデルの種類を把握しておく必要があります。詳細は、「 ライセンス サーバ モデルを決定する 4 ページ 」を参照してください。 |
| <input type="checkbox"/> | ネットワーク管理者ツールおよびユーティリティをインストールし、アクティブにします。たとえば、ネットワーク ライセンスを使用する場合は、インストーラから Network License Manager をインストールします。 |
| <input type="checkbox"/> | 製品のシリアル番号とプロダクト キーを確認します。これらは、製品パッケージの外側に記載されているか、オートデスクから製品をダウンロードまたはアップグレードした場合は電子メールに記載されています。 |
| <input type="checkbox"/> | 配置を格納するネットワークの場所を決め、配置を格納する共有フォルダを作成します。 |
| <input type="checkbox"/> | 製品に言語オプションがある場合は、各配置に使用する言語を決定します。 |
| 注: 言語は、最初に配置を作成するときや、新しい配置の環境設定を作成するときに追加できますが、配置の修正時には追加できません。 | |

- 個別のコンピュータ、配置フォルダ、またはその両方にログ ファイルを作成するかどうかを決定します。
- サイレント モードでインストールを実行するかどうかを決定します。

注: サイレントモードで製品をインストールすると、インストール完了時に警告が表示されずに、ユーザのシステムが自動的に再起動されます。

- 定義した検索パス、サポート ファイルの場所、Service Pack を自動的にインストールするかなど、適用可能なその他の環境設定を確認します。

インスレーションの種類を決定する

配置を設定するときに、プラットフォームの種類とライセンスのタイプによって、インスレーションの種類を指定します。

プラットフォームの種類

配置を使用するコンピュータのオペレーティングシステムに応じて、32ビットまたは64ビットのいずれかを選択します。オートデスク製品の中には、64ビットのオペレーティングシステム上に32ビットバージョンをインストールできるものもあります。詳細は、各製品のドキュメントを参照してください。

ライセンスのタイプ

購入したライセンスのタイプに基づいて、インストーラで次のライセンスのタイプのいずれかを指定します。

ネットワークライセンス このライセンスのタイプでは、製品が1台または複数台のサーバーの Network License Manager(NLM) と通信するうえで必要となるファイルおよびレジストリエントリとともに、製品をネットワーク上のコンピュータにインストールします。NLM の環境設定も定義します。クライアント コンピュータでオートデスク製品を起動すると、NLM にライセンスを要求し、製品を停止するとライセンスを返却します。ネットワーク インスレーションで製品を実行するコンピュータは、個別にアクティベーションを行う必要はありません。詳細は、「[ライセンス サーバ モデルを決定する 4 ページ](#)」を参照してください。

ネットワーク ライセンスの主な利点は、購入したライセンス数以上のシステムに製品をインストールできることです(たとえば、

25 のライセンスを購入し、40 台のコンピュータにインストールできます)。製品は、購入したライセンス数分のコンピュータで同時に実行できるため、本格的なフローティングライセンスとして使用できます。

スタンドアロン ライセンス このライセンスのタイプでは、1つのシリアル番号とプロダクトキーを使用して複数台のコンピュータに製品をインストールするマルチシート スタンドアロン インストールで使用します。このライセンスのタイプでは、製品ライセンスの管理に NLM を使用しません。代わりに、インストール、登録、アクティベーションは各コンピュータ上で行います。一度マルチシート スタンドアロンのシリアル番号とプロダクトキーを使用してアクティベーションを行うと、その後はこの配置を使用して、インターネットに接続されているすべてのコンピュータで自動的にアクティベーションが行われます。

ライセンス サーバ モデルを決定する

ネットワークライセンス オプションを選択する場合、製品ライセンスの配布に使用するライセンス サーバ モデルを把握しておく必要があります。これは、ライセンスの購入時に次のいずれかとして指定したものです。

- **シングルライセンス サーバ モデル:** Network License Manager(NLM)が1台のサーバにインストールされるため、ライセンスの管理と操作は、このサーバに制限されます。1つのライセンス ファイルに、サーバ上で使用可能なライセンスの合計数が記録されます。
- **分散ライセンス サーバ モデル:** ライセンスは複数のサーバに分散されます。サーバごとに、一意のライセンス ファイルが必要になります。分散ライセンス サーバを構築するには、分散サーバ プールの一部である各サーバ上で NLM を実行する必要があります。

注: 分散ライセンス サーバ モデルは、Autodesk Simulation Moldflow 製品でサポートされていません。

- **冗長ライセンス サーバ モデル:** 3 台のサーバで、各ライセンスを認証できます。この環境設定を使用すると、少なくとも 2 台のサーバが稼働している限り、ライセンスの監視と発行が継続されます。3 台すべてのサーバ上で同じライセンス ファイルを使用し、それぞれのサーバ上で NLM を実行する必要があります。

これらの各ライセンス サーバ モデルの詳細は、『ライセンス ガイド』に記載されています。製品を配置する前に、このガイドを読むことをお勧めします。『ライセンス ガイド』を表示するには、インストーラの [インストール ション ヘルプ] リンクをクリックします。

個々の製品を環境設定する

配置を作成するときに、インストールするために選択した製品の既定の設定をそのまま使用することも、それらの設定を環境設定してカスタム配置を作成することもできます。各製品の環境設定の詳細は、通常、このガイドの製品固有の付録に記載されています。これらの付録を確認し、配置内の各製品に対して適切な設定を決定することをお勧めします。

製品を環境設定するには、インストーラの[**配置を作成**]ページで、インストールする製品を選択していることを確認して、製品名をクリックし、環境設定パネルを開きます。

重要: 選択した環境設定は、配置からインストールされる製品のすべてのインスタンスに適用されます。配置の作成後にこれらの設定を変更するには、配置の修正によってのみ可能です。詳細は、「[配置を修正する](#) 9 ページ」を参照してください。

ほとんどの製品でインストレーションの種類を選択できます。最も一般的なオプションを選択する場合は[**標準**]を選択し、より詳細にオプションを検討する場合は[**カスタム**]を選択します。

一般的な製品のその他の設定は次の通りです。

- 製品の動作に関するユーザ設定
- サポート ファイル(マテリアル ライブラリなど)のインストレーション
- オンライン リソースへのアクセス

製品またはスイート製品に固有の詳細情報を参照するには、[**インストレーション ヘルプ**]をクリックしてください。

Service Pack を含める

ほとんどの製品には、配置に Service Pack を含めるオプションが用意されています。オートデスクの Web サイト から Service Pack をダウンロードしたり、ローカルハードドライブまたはネットワーク上の場所に保管されている Service Pack を使用することができます。いずれの場合も、Service Pack は、メイン製品のインストールが完了した後にのみ適用されます。

autodesk.com にある Service Pack をインストールするボタンを選択すると、Service Pack は自動的にダウンロードされます。MSP ファイルを展開する必要はありません。

Service Pack がローカルに保管されている場合にのみ、配置に複数の Service Pack を追加することができます。これは autodesk.com からダウンロードした場合は実行できません。

注: メイン製品の配置処理がキャンセルされたり失敗した場合、Service Pack のインストールは、自動的にキャンセルされます。

配置に Service Pack を含めるときに使用可能なオプションは、次の 2 つです。

- **[Service Pack をこの配置に追加する]:** Service Pack を追加すると、Service Pack は現在の配置にのみ適用されます。複数の Service Pack を 1 つの配置に追加できません。Service Pack ファイルは配置に含まれており、製品が配置されてから適用されます。
- **[Service Pack を管理イメージの MSI ファイルに合成する]:** このオプションを使用すると、Service Pack は管理イメージに合成されます。いったん合成すると、Service Pack を管理イメージから除去できなくなります。

Service Pack から Microsoft Installer Patch (MSP) ファイルを解凍するには

- 1 ご使用の製品のサポート サイトから Service Pack をダウンロードします。
- 2 Service Pack の *Readme* ファイルを読んで、パッチの使用に関する注意を確認します。
- 3 Windows の[コマンド プロンプト]を開き、パッチ ファイル名、/e スイッチ、およびターゲット ファイル名を入力します。一般的なコマンド形式は次のとおりです。

```
<ローカル_ドライブ:>¥<パッチ_名>.exe /e
```

```
<ローカル_ドライブ:>¥<パッチ_名>.msp
```

次に例を示します。

```
ProductSP1.exe /e ./ProductSP1.msp
```

ここで、*ProductSP1.exe* はダウンロードしたパッチ ファイルの名前です。*ProductSP1.msp* は解凍されるファイルの名前です。解凍されるファイルの前に "./" を付けることによって、ダウンロードした自己解凍形式のパッチ ファイルと同じフォルダに解凍されます。。"e" コマンドラインスイッチは、実行形式から MSP ファイルを解凍します。

Service Pack を配置に含めるには

Service Pack を配置に含めるには、ダウンロードした Service Pack ファイルから MSP ファイルを展開する必要があります。

- 1 **[Service Pack を含める]** ページで、**[参照]** ボタンをクリックします。
- 2 **[ファイルを開く]** ダイアログ ボックスで、配置に含める Service Pack を検索します。
- 3 MSP ファイルを選択し、**[開く]** をクリックします。
- 4 Service Pack を配置に追加するか、Service Pack を管理イメージに合成するかを指定します。

- 5 [次へ]をクリックします。

ネットワーク共有を作成する

配置作成の準備が完了したら、ネットワーク上の共有の場所からオートデスク製品の設定と配布の準備を行います。ネットワーク共有は、すべてのユーザのコンピュータがアクセスできるインストレーションフォルダです。ネットワーク共有に配置を作成し、プログラムのインストール先として、この場所をユーザに指示します。ネットワーク共有フォルダ内のサブフォルダは、すべて自動的に共有フォルダになります。

ネットワーク ログ ファイルを作成するオプションを選択した場合、インストール中にユーザのコンピュータはネットワーク共有内のログ ファイルにエントリを書き出します。そのため、このオプションを選択した場合、ユーザがネットワーク共有に読み書きアクセスする必要があります。

配置の作成プロセス中に、ネットワーク共有に配置フォルダを作成できます。同じ製品またはスイート製品の複数の配置を作成し、異なるユーザグループ用に環境設定する場合、これらの配置は同じ管理イメージを共有でき、ショートカットは同じフォルダに置くことができます。ただし、別の製品またはスイート製品の配置を作成する場合は、ネットワーク共有に別々の製品フォルダを作成した後に、配置の作成を開始することをお勧めします。

ネットワーク共有の作成方法については、ご使用のオペレーティングシステムのドキュメントを参照してください。

配置を作成する

新しい配置を作成する

この手順を使用して、インストーラから新しい配置を作成します。このプロセスでは、インストールする各製品の既定の環境設定を受け入れて**既定の配置**を作成したり、配置内の1つまたは複数の製品の環境設定をカスタマイズして**カスタム配置**を作成できます。

新しい配置を作成するには

- 1 コンピュータで実行中のアプリケーションをすべて閉じます。
- 2 インストーラを起動します。
- 3 最初のページで言語を選択できる場合は、配置プロセスで使用する言語を選択し、**[配置を作成]**をクリックします。
- 4 **[環境設定<名前>]**ページの**[管理イメージ]**領域で、次のデータを指定します。

- 1 ユーザグループを識別する配置の名前、プラットフォーム、または他の配置と区別するその他の属性を入力します。
- 2 管理イメージを作成して格納する共有ネットワークフォルダへのパスを入力するか、[参照]ボタンを使用して指定します。ユーザは、この場所からプログラムをインストールします。

注: ネットワーク共有を作成する方法については、「[ネットワーク共有を作成する 7 ページ](#)」を参照してください。

- 3 適用先のオペレーティング システムが 32 ビットか 64 ビットかを選択します。
- 4 この環境設定に必要な製品のみを含めるかどうかを指定します。
 - これを選択した場合、将来、製品を追加するために配置を修正することができなくなります。
 - これを選択しない場合、管理イメージには利用可能な製品がすべて含まれ、将来、任意の方法で現在の配置を修正することができます。
- 5 [インストール設定]領域で、次の1つまたは複数のオプションをオンにします。

- **サイレント モード**は、ユーザ入力なしに、インストールをバックグラウンドで実行します。

注: サイレント モードでは、インストール後に警告を表示せずに、ユーザのコンピュータを自動的に再起動できます。

- **各ワークステーションのログ ファイル**で、ユーザはインストールを確認したり、問題を解決できるようになります。
- サーバの場所の**ネットワーク ログ ファイル**で、ネットワーク管理者はすべてのインストールのデータを確認できるようになります。

注: ネットワーク ログ ファイルは、配置のユーザが読み書きアクセスできる共有フォルダに格納する必要があります。共有フォルダにない場合、ユーザのインストールのログ データはログ ファイルに書き出されません。

- 6 オートデスク ソフトウェア使用許諾契約を確認して同意します。
- 7 [製品情報]ページで、ライセンスの種類を選択し、シリアル番号とプロダクト キーを入力します。このデータが有効な場合、緑のチェック マークが表示されます。
- 8 製品情報が正しいことを確認したら、[次へ]をクリックします。

- 9 [配置を作成]の[環境設定]の環境設定ページで、配置に含める製品を選択します。
- 10 10.製品の環境設定が必要な場合は、製品名をクリックして環境設定パネルを開くと、設定の確認および変更ができます。
重要: 選択した環境設定は、配置からインストールされる製品のすべてのインスタンスに適用されます。配置の作成後は、これらの設定は配置を修正することでのみ変更可能です。

環境設定は製品に応じて大きく異なります。詳細は、[インストレーションヘルプ]をクリックして製品のドキュメントを参照してください。
- 11 [作成]をクリックして、配置を作成します。
配置が作成されると、[配置環境設定の完了]ページが開き、新しい配置への有効なパスと、製品をオンライン登録するためのリンクが表示されます。
- 12 この画面の使用を終了したら、[完了]をクリックします。

配置を修正する

各配置フォルダ内には[Create and modify a deployment]というショートカット(.LNK ファイル)を含む Tools フォルダがあります。このショートカットを使用して、次の作業を行うことができます。

- 新しい配置環境設定を作成する
- 既存の配置をテンプレートとして使用して、新しい配置環境設定を作成する
- 既存の配置環境設定を修正する

新しい配置を作成するときと同様に、インストーラの各ページで、環境設定を行います。配置環境設定で、元の管理イメージが、必要な製品のみを含めるように設定されている場合、配置の作成または修正が制限されます。特に、元の管理イメージに含まれない製品を配置に追加することはできません。逆に、元の管理イメージが、必要な製品のみを含めるように設定されていなければ、すべての製品のファイルが元の管理イメージに含まれています。その結果、この配置を修正したり、新しい配置環境設定を作成するときに、製品を追加できます。

配置を修正するには

- 1 配置が格納されている共有ネットワーク フォルダを開きます。
- 2 Tools フォルダで、[Create and modify a deployment]ショートカットをダブルクリックします。
インストーラの[配置を修正]ページが表示されます。
- 3 配置環境設定の各ページで、必要なオプションをクリックして選択します。

4 **[配置を作成]** をクリックします。

ユーザに管理イメージを通知する

配置の作成を終了すると、ユーザは、管理イメージと一緒に配置フォルダに格納されているショートカット(.LNK ファイル)を使用して、プログラムをインストールできるようになります。ショートカットの名前は、配置の作成時に指定した配置の名前と同じです。ユーザにショートカットの名前と場所を通知します。ショートカットをダブルクリックしてインストールを開始するようユーザに指示します。配置がサイレント モードを使用している場合、製品のインストール後にユーザのコンピュータが自動的に再起動するので、インストール中は他のアプリケーションを終了しておくようユーザに通知します。

代替配布法

2

配置方法の概要

標準の配置のほかに、次の代替方法を使用して Windows プラットフォーム上に
オートデスク プログラムを配布できます。

- **スクリプト:** 詳細は、「[バッチ ファイルを使用してプログラムを配置する 11 ページ](#)」を参照してください。
- **グループ ポリシー オブジェクト(GPO):** 詳細は、「[グループ ポリシーを使用して配置を実行する 14 ページ](#)」を参照してください。
- **Microsoft System Center Configuration Manager (SCCM):** 詳細は、「[Microsoft SCCM を使用して製品を配置する 19 ページ](#)」を参照してください。
- **ディスクイメージ作成ソフトウェア:** 詳細は、「[ディスクイメージ作成ソフトウェアを使用して製品を配布する 22 ページ](#)」を参照してください。

バッチ ファイルを使用してプログラムを配置する

バッチ ファイルは一連のコマンドを実行します。インストール バッチ ファイルは、ネットワークに接続したコンピュータに、スタンドアロン ライセンス プログラムまたはネットワーク ライセンス プログラムをインストールするのに適しています。これらのファイルは、ネットワークで、Service Pack、Extension、Object Enabler をインストールする場合にも便利です。

バッチ ファイルは、1 つまたは複数のコマンド、オプションを指定するコマンドスイッチ、およびオプションを変更するフラグから構成されます。インストールスクリプトにはパス名も含まれます。

インストール スクリプトは、製品の setup.exe ファイルの場所を指定します。製品メディアまたはネットワーク上にある setup.exe を指定する必要があります。

オートデスク製品が正常に作動するには、プログラムをインストールするコンピュータの管理者権限が必要となります。

サンプルインストール バッチ ファイル

このセクションのサンプル バッチ ファイルは、スタンドアロン ライセンスまたはネットワーク ライセンス バージョンの AutoCAD を標準設定でインストールします。このサンプル バッチ ファイルをコピーして、パーソナル情報を書き換えやすくするため、変数には同じ名前を使用してください。

注記:

<mediaDriveLetter> は、メディアがマウントされた、または setup.exe ファイルが格納されたドライブ名です。

ここで使用するインストール オプションは、/t(設定をスクリプトで実行)および /qb(基本的なユーザ インタフェースを表示)があります。/w(致命的でない警告を記録)などその他のオプションは、Microsoft Msiexec コマンドラインで定義され、MS TechNet の Web サイトに記載されています。

<SerialPrefix> はシリアル番号の最初の 3 桁の数字

<SerialPrefix> はシリアル番号の最後の 8 桁の数字

<ProdKey> はプロダクト キー

<lang> は IETF 言語タグ。たとえば、en-US は米国英語

<eula_lang> は ISO 3166-1 alpha-2 標準国名コード。

例: US = 米国

スタンドアロン ライセンス

```
<mediaDriveLetter>\setup.exe /t /qb /language <lang> /c
ACAD: INSTALLDIR="%programFiles%\Autodesk\AutoCAD 2013"
ACADSERIALPREFIX=<SerialPrefix>ACADSERIALNUMBER=<SerialPostFix>
ADLM_PRODKEY=<ProdKey> ADLM_EULA_COUNTRY=<eula_lang>
InstallLevel=5
```

例:

```
C:\setup.exe /t /qb /language en-us /c
ACAD: INSTALLDIR="%programFiles%\Autodesk\AutoCAD 2013"
ACADSERIALPREFIX=123 ACADSERIALNUMBER=12345678
ADLM_PRODKEY=001E1 ADLM_EULA_COUNTRY=US InstallLevel=5
```

シングル ネットワーク ライセンス

```
<mediaDriveLetter>\setup.exe /t /qb /language <lang> /c
```

```
ACAD: INSTALLDIR="%programFiles%\Autodesk\AutoCAD 2013"
ACADSERIALPREFIX=<SerialPrefix>ACADSERIALNUMBER=<SerialPostFix>
ADLM_PRODKEY=<ProdKey> ADLM_EULA_COUNTRY=<eula_lang>
InstallLevel=5
ACADSTANDALONENETWORKTYPE="3" ACADLICENSESERVERTYPE="Single
Server License"
ACADLICENSETYPE="Network License"
ACADSERVERPATH="<FlexLicenseServer> 000000000000"
```

注記:

ネットワーク ライセンスでは、ACADSTANDALONENETWORKTYPE はインストールするライセンスの種類を特定します。指定可能な値は、0: ネットワークとスタンドアロン両方、1: スタンドアロン、3: ネットワークの3つです。

<FlexLicenseServer> はネットワーク ライセンス サーバです。

分散ネットワーク ライセンス

```
<mediaDriveLetter>\setup.exe /t /qb /language <lang> /c
ACAD: INSTALLDIR="%programFiles%\Autodesk\AutoCAD 2013"
ACADSERIALPREFIX=<SerialPrefix>ACADSERIALNUMBER=<SerialPostFix>
ADLM_PRODKEY=<ProdKey> ADLM_EULA_COUNTRY=<eula_lang>
InstallLevel=5
ACADSTANDALONENETWORKTYPE="3"
ACAD_LICENSESERVER_DISTRIBUTED="1"
ACADLICENSESERVERTYPE="Distributed Server License"
ACADLICENSETYPE="Network License"
ACADSERVERPATH="@<server1>;@<server2>;@<server3>;"
```

注記:

<server1> から <serverN> は有効なネットワーク ライセンス サーバです。

冗長ネットワーク ライセンス

```
<mediaDriveLetter>\setup.exe /t /qb /language <lang> /c
ACAD: INSTALLDIR="%programFiles%\Autodesk\AutoCAD 2013"
ACADSERIALPREFIX=<SerialPrefix>ACADSERIALNUMBER=<SerialPostFix>
ADLM_PRODKEY=<ProdKey> ADLM_EULA_COUNTRY=<eula_lang>
```

```
InstallLevel=5
ACADSTANDALONENETWORKTYPE="3"
ACADLICENSESERVERTYPE="Redundant Server License"
ACADLICENSETYPE="Network License"
ACADSERVERPATH="<server1> 000000000000 27005;<server2>
000000000000 27005;<server3> 000000000000 27005;"
```

注記:

<server1> から <server3> は冗長ライセンスのある有効なネットワーク ライセンス サーバです。

バッチ ファイルを実行する

バッチ ファイルを作成した後、スクリプトをサーバ、ドライブ名が割り当てられたネットワーク ドライブ、UNC(universal naming convention)パスのいずれかに移動します。スクリプトをユーザが実行するためにサーバに格納する場合は、サーバに共有フォルダを作成します。次に、ユーザに適切な権限を与えて、ネットワーク共有にユーザを追加します。バッチ ファイルを実行するユーザには、共有フォルダに対する読み取り専用アクセス権が必要です。

次に、サーバの他の場所に、インストールする各製品のフォルダを作成します。製品メディアからこのフォルダにインストール ファイルをコピーします。Service Pack、Extension、ユーザ独自のカスタマイズ ツール用のフォルダも必要に応じて作成します。

次のいずれかの方法を使用して、インストール バッチ ファイルを実行します。

- 個々のコンピュータで、バッチ ファイルを手動で実行します。インストールを実行するために、[ファイル名を指定して実行]ダイアログ ボックスにバッチ ファイル名を指定するか、[Windows コマンド プロンプト]でバッチ ファイルを実行します。
- バッチ ファイルを実行する各ユーザに、UNC パスと必要な指示を記載した電子メールを送信します。
- 各ユーザにバッチ ファイルと使用方法を電子メールで送ります。
- ログオン時に実行するように、バッチ ファイルを設定します。

グループ ポリシーを使用して配置を実行する

グループ ポリシーを使用して、コンピュータに配置を割り当てることで、プログラムを提供およびインストールできます。コンピュータに割り当てられ

た配置は、そのコンピュータの任意のユーザが使用できます。通常、複数のユーザが共有するコンピュータに配置を割り当てます。

注: オートデスク製品は、インストールしたコンピュータにログオンした任意のユーザが製品を実行できるように設計されています。配置をコンピュータにではなく、特定のユーザに割り当てた場合、2人目のユーザがプログラムをインストールまたはアンインストールしようとする、問題が発生することがあります。

グループ ポリシー使用の長所と短所の概要を次に示します。

長所

- 配置機能と一緒に動作します。
- 配置にカスタム ファイルを追加できます。
- ユーザに配置するのではなく、コンピュータに配置します。

短所

- MSI 実行ファイルにコマンドラインパラメータを渡すことができません。代わりに、スクリプトを使用する必要があります。
- 配置の作成時に設定した内容以外に、アプリケーションの設定をカスタマイズすることはできません。

通常、オートデスク製品には、オートデスク製品をサポートするためにコンピュータへのインストールが必要なソフトウェア要件があります。特に、Microsoft .NET Framework 4.0、Fusion、Fusion plug-in は、グループ ポリシーを使用する前にインストールしなければなりません。製品を配布する前に、各製品の「動作環境」を検討し、プログラムをインストールするコンピュータにそれらがインストールされていることを確認します。

グループ ポリシーを使用したプログラムの配布には、次の3つの主要な段階があります。

- 1 **アプリケーション配布ポイント(管理イメージ)を作成します。** アプリケーション配布ポイントは、配置の作成時に作成されます。配置を作成するには、「[新しい配置を作成する](#) 7 ページ」を参照してください。
- 2 **コンピュータに配置を割り当てます。** 詳細は、「[グループ ポリシーを使用してコンピュータに配置を割り当てる](#) 16 ページ」を参照してください。
- 3 **インストレーションを確認します。** プログラムが適切にインストールされているかを確認します。詳細は、「[グループ ポリシー配置を確認する](#) 18 ページ」を参照してください。

グループポリシーを使用してコンピュータに配置を割り当てる

グループポリシー管理コンソール(GPMC)がインストールされていて、Active Directory サーバにアクセスできる Windows XP コンピュータ、Windows 2000 サーバ、Windows 2003 サーバから、次の手順を実行します。

注: 詳細は、[Microsoft TechNet](#) で「グループ ポリシー管理コンソール」を検索してください。

配置をコンピュータに割り当てるには

- 1 グループ ポリシー管理コンソール(gpmmc.msc)を開始します。
- 2 グループ ポリシー オブジェクトを作成する組織単位を右クリックします。次に、**[GPO を作成およびリンク]**を選択し、グループ ポリシーの名前を指定します。
- 3 ポリシーを編集します。
- 4 **[グループ ポリシー オブジェクト エディタ]**ダイアログ ボックスの**[ソフトウェアの設定]**ノードで、**[ソフトウェア インストール]**を右クリックし、**[新規作成]** > **[パッケージ]**を選択します。
- 5 **[ファイルを開く]**ダイアログ ボックスで、配置プロセスで作成した管理イメージの場所に移動します。AdminImage¥<プロセッサの種類>¥<製品名フォルダ>を指定します。プロセッサの種類は、配置で作成したプロセッサの種類に応じて、x86 か x64 のどちらかです。

表 2: 例

| | |
|------------|--|
| x86 配置の場合: | \\server123\Deployment\AdminImage\x86\acad |
| x64 配置の場合: | \\server123\Deployment\AdminImage\x64\acad |

- 6 acad-<配置名>-for-GPO.msi という名前の MSI(Windows Installer Packages)ファイルを選択します。**[開く]**をクリックします。配置の名前が「Design 2013 32 bit」の場合、配置の MSI ファイルの名前は、「acad-Design 2013 32 bit-for-GPO.msi」となります。
- 7 **[ソフトウェアを配置]**ダイアログ ボックスで、**[詳細設定]**を選択し、**[OK]**をクリックします。
- 8 **[プロパティ]**ダイアログ ボックスの**[変更]**タブで、**[追加]**をクリックします。
- 9 **[ファイルを開く]**ダイアログ ボックスで、acad-<配置名>.mst という名前の Transform Package ファイルを選択します。**[開く]**をクリックします。

- 10 [プロパティ]ダイアログ ボックスの[変更]タブで、[追加]をクリックします。
- 11 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、<配置場所>\Tools に移動し、*gpo.mst*. という名前の **Transform Package** ファイルを選択します。
- 12 [OK]をクリックして、パッケージを完成します。

言語パックを追加する

製品で言語パックを使用する場合、パッケージに言語パックを追加することが必要な場合があります。

言語パックを追加するには

- 1 [グループ ポリシー オブジェクト エディタ]ダイアログ ボックスの[ソフトウェアの設定]ノードで、同じオブジェクトに対して[ソフトウェアインストール]を右クリックし、[新規作成] > [パッケージ]を選択します。
- 2 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、配置の作成時に指定した管理イメージの場所へ移動します。AdminImage\<プロセッサの種類>\<地域>*acadlp.msi* を指定します。[開く] をクリックします。
この例では、<地域> は en-us で米国英語を使用しています。

表 3: 例

| | |
|------------|--|
| x86 配置の場合: | \\server123\Deployment\AdminImage\x86\en-us\acad |
| x64 配置の場合: | \\server123\Deployment\AdminImage\x64\en-us\acad |

- 3 [ソフトウェアを配置]ダイアログ ボックスで、[詳細設定]を選択し、[OK] をクリックします。
- 4 [<製品名>のプロパティ]ダイアログ ボックスの[変更]タブで、[追加]をクリックします。
- 5 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、AdminImage\<プロセッサの種類>\acad にある acad-<配置名>.mst という名前の **Transform Package** ファイルを選択します。[開く] をクリックします。
- 6 [<製品名>のプロパティ]ダイアログ ボックスの[変更]タブで、[追加]をクリックします。
- 7 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、<配置場所>\Tools に移動し、*gpo.mst*. という名前の **Transform Package** ファイルを選択します。
- 8 [OK]をクリックして、パッケージを完成します。

これで、作成したグループ ポリシーの組織単位のメンバーであるすべてのコンピュータに、グループ ポリシー オブジェクトが割り当てられます。組織単位内のコンピュータを次回再起動したときに、プログラムがインストールさ

れ、コンピュータのすべてのユーザが使用可能となります。グループ ポリシーが適切に作成されたかを確認するには、「[グループ ポリシー配置を確認する](#) 18 ページ」を参照してください。

製品専用パッケージを追加するには

- 1 [グループ ポリシー オブジェクト エディタ]ダイアログ ボックスの[ソフトウェアの設定]ノードで、同じオブジェクトに対して[ソフトウェアインストール]を右クリックし、[新規作成]>[パッケージ]を選択します。
- 2 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、配置の作成時に指定した管理イメージの場所に移動します。AdminImage\<プロセッサの種類>\<地域>\acadps.msi を指定します。[開く]をクリックします。
この例では、<地域> は en-us で米国英語を使用しています。

表 4: 例

| | |
|------------|--|
| x86 配置の場合: | \\server123\Deployment\AdminImage\x86\en-us\acad |
| x64 配置の場合: | \\server123\Deployment\AdminImage\x64\en-us\acad |

- 3 [ソフトウェアを配置]ダイアログ ボックスで、[詳細設定]を選択し、[OK]をクリックします。
- 4 [<製品名>のプロパティ]ダイアログ ボックスの[変更]タブで、[追加]をクリックします。
- 5 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、AdminImage\<プロセッサの種類>\acad にある acad-<配置名>.mst という名前の **Transform Package** ファイルを選択します。[開く]をクリックします。
- 6 [<製品名>のプロパティ]ダイアログ ボックスの[変更]タブで、[追加]をクリックします。
- 7 [ファイルを開く]ダイアログ ボックスで、<配置場所>\Tools に移動し、gpo.mst. という名前の **Transform Package** ファイルを選択します。
- 8 [OK]をクリックして、パッケージを完成します。

これで、作成したグループ ポリシーの組織単位のメンバーであるすべてのコンピュータに、グループ ポリシー オブジェクトが割り当てられます。組織単位内のコンピュータを次回再起動したときに、プログラムがインストールされ、コンピュータのすべてのユーザが使用可能となります。グループ ポリシーが適切に作成されたかを確認するには、「[グループ ポリシー配置を確認する](#) 18 ページ」を参照してください。

グループ ポリシー配置を確認する

この配置が適切にコンピュータに割り当てられたかを確認するには、作成したグループ ポリシーの組織単位に含まれるコンピュータを再起動します。口

ログオン プロンプトが表示される前に、プログラムのインストールが開始されます。オペレーティング システムによって、グループ ポリシー メッセージが表示されます。これには、管理されるソフトウェアのインストールを示すメッセージも含まれます。

ログオン後、デスクトップに表示されているプログラム アイコンをダブルクリックして、インストールを終了し、プログラムを起動します。

注: 問題が発生した場合は、[イベント ビューア]の[アプリケーション]にイベントが記録されます。

Microsoft SCCM を使用して製品を配置する

Microsoft System Center Configuration Manager(SCCM)を使用すると、選択した適用先システムへのソフトウェアの配布を、リモート処理で管理できます。このトピックの詳細は、[Microsoft TechNet](#) で "System Center Configuration Manager" を検索してください。

それぞれの配置には <配置名>\SMS_SCCM scripts フォルダがあり、このフォルダには SCCM 配置に役立つ SMS_SCCM_ReadMe.docx と <配置名>_SCCM.txt の 2 つのドキュメントが含まれています。

注: SCCM を使用してオートデスク製品を配布する前に、それぞれの配布先コンピュータに、Microsoft .NET Framework 4.0 がインストールされている必要があります。

SCCM を使用してオートデスク製品を配置するには、次の手順を実行することをお勧めします。

- 1 ソフトウェア パッケージの適用先コンピュータ グループを特定または作成します。
- 2 インストーラの[配置を作成]手順を使用して、ソースフォルダを作成します。詳細は、「[SCCM のソース フォルダを設定する 20 ページ](#)」を参照してください。
- 3 SCCM パッケージを作成して適用先システムに配置し、ソフトウェアパッケージが使用可能であることをユーザに通知します。詳細は、「[SCCM ソフトウェア配布パッケージを作成する 20 ページ](#)」を参照してください。

注: SCCM による Windows XP への DirectX 9.0C の配布は、サポートされていません。オートデスク製品を正常に実行するには、DirectX 9.0C を製品メディア(<メディア>¥3rdParty¥DirectX¥DXSETUP.exe)から手動でインストールする必要があります。DirectX 9.0C のこのバージョンは、オートデスク製品で使用するためにカスタマイズされています。

SCCM のソース フォルダを設定する

オートデスク製品の配置に SCCM を使用するときは、インストーラの[配置を作成]プロセスを使用してソース フォルダを設定します。

[配置を作成]プロセスにより管理イメージが作成され、SCCM はこの管理イメージを使用して、オートデスク製品を目的のコンピュータに配布します。管理イメージの場所が、パッケージ ソース フォルダです。

オートデスクソフトウェアの配置とソースフォルダの設定の詳細は、「[配置を理解する 1 ページ](#)」を参照してください。

注: SCCM を環境設定して製品を配置する前に、配置をテストし、製品が正常にインストールできるか確認することをお勧めします。

配置をテストするには

- 1 管理者権限を持つユーザとして、Windows コンピュータにログオンします。
- 2 管理イメージが作成されたソース フォルダに移動します。
- 3 配置プロセスによって作成された配置のショートカットをダブルクリックします。
プログラムがインストールされるか、エラー情報が %temp% のログ ファイルに書き出されます。

SCCM ソフトウェア配布パッケージを作成する

配置プロセスを使用してソースフォルダを作成した後、SCCM ソフトウェア配布パッケージを作成します。SCCM パッケージには、ソフトウェアを配布したり、ユーザにパッケージを通知するためのファイルと命令が含まれます。配置プロセスで独自のファイルと命令が作成されますが、SCCM は、これらのファイルを使用するように環境設定する必要があります。

SCCM を使用してソフトウェア配布パッケージを作成するには

- 1 ([スタート]メニュー > [プログラム]または[すべてのプログラム] > [Microsoft System Center] > [Configuration Manager 2007] > [ConfigMgr Console])をクリックします。
- 2 [Configuration Manager Console]ウィンドウで、[Software Distribution]を展開します。
- 3 [Packages] > を右クリック > [Distribute][Software]を選択します。
- 4 [Distribute Software]ウィザードで、[Next]をクリックします。

- 5 [Package]ダイアログ ボックスで、[Create a New Package and Program without a Definition File]を選択します。[Next]をクリックします。
- 6 [Package Identification]ダイアログ ボックスで、名前、バージョン、配布者、言語、任意のコメントなどの情報を入力します。[Next]をクリックします。
- 7 [Source Files]ダイアログ ボックスで、SCCM がファイルを取得する場所と、それらの管理方法を選択します。[Always Obtain Files from a Source Directory]を選択します。[Next]をクリックします。
- 8 [Source Files]ダイアログ ボックスで、ソース フォルダの場所を指定します。[Next]をクリックします。
- 9 [Distribution Points]ダイアログ ボックスで、配布ポイントを選択します。これは、目標のコンピュータに配置するソフトウェア パッケージの場所です。[Next]をクリックします。
- 10 [Program Identification]ダイアログ ボックスで、プログラムの名前を入力します。これは、[コントロール パネル]の[プログラムの追加と削除]に表示される名前です。[Command Line]フィールドに、
「AdminImage¥setup.exe/W/Q/I AdminImage¥<配置名
>.ini/Lang ja-JP」と入力します。たとえば、配置の名前が
「Adsk-2012」の場合、「AdminImage¥setup.exe /W /Q /I
AdminImage¥Adsk-2012.ini /Lang ja-JP」と入力します。[Next]
をクリックします。

注: この例では、インストールする言語パックは日本語(JA Japanese)です。/W は SMS および SCCM のフラグ、/Q はサイレント インストール、/I は配置インストレーションを示します。

- 11 [Program Properties]ダイアログ ボックスの[Program Can Run]ドロップダウン リストで、プログラムのインストール方法を選択します。次のいずれかを選択します。
 - Only When a User is Logged On
 - Whether or Not a User is Logged On
 - Only When No User is Logged On
- 12 [After Running]ドロップダウン リストで、プログラムがインストールされた後に必要な動作を選択し、[Next]をクリックします。次のいずれかを選択します。
 - No Action Required
 - Program Restarts Computer
 - ConfigMgr Restarts Computer
 - ConfigMgr Logs User Off

注: 一部の製品は、インストール後にシステムを再起動する必要があります。

- 13 **[Advertise Program]**ダイアログ ボックスで、**[Yes]**を選択してプログラムをユーザにアドバタイズします。**[Next]**をクリックします。
- 14 **[Select a Program to Advertise]**ダイアログ ボックスで、アドバタイズするパッケージを選択します。**[Next]**をクリックします。
- 15 **[Select Program] > [Advertisement Target]**ダイアログ ボックスで、アドバタイズするユーザのコレクションを選択するか、新しいコレクションを作成します。
- 16 **[Select Program] > [Advertisement Name]**ダイアログ ボックスで、アドバタイズの名前を入力、または変更します。アドバタイズを説明するための任意のコメントを記入します。**[Next]**をクリックします。
- 17 **[Select Program] > [Advertisement Subcollection]**ダイアログ ボックスで、次のオプションのいずれかを選択します。
 - Advertise this Program to an Existing Collection
 - Create a New Collection and Advertise this Program to It
- 18 **[Next]**をクリックします。
- 19 **[Select Program] > [Advertisement Schedule]**ダイアログ ボックスで、必要に応じて、指定した日時にプログラムをアドバタイズするオプションを設定したり、期限を設定します。**[Next]**をクリックします。
- 20 **[Select Program] > [Assign Program]**ダイアログ ボックスで、次のオプションのいずれかを選択し、**[Next]**をクリックします。
 - インストレーション プロセスが必須の場合は、**[Yes, Assign the Program]**を選択します。
 - インストレーション プロセスが省略可能な場合は、**[No, Do Not Assign the Program]**を選択します。
- 21 **[Summary]**ダイアログ ボックスで、アドバタイズ情報を確認します。訂正するには、**[Back]**ボタンを使用します。**[Next]**をクリックして完了します。

ディスクイメージ作成ソフトウェアを使用して製品を配布する

Norton Ghostなどのディスクイメージ作成ソフトウェアを使用してマスターイメージを作成し、オートデスク製品を配布できます。作成したマスターイメージは、ユーザーの責任で他のコンピュータに複製することができます。

重要: オートデスクは、ディスクイメージ作成ソフトウェアを使用した製品の配布をお勧めしません(サポートの対象ではありません)。しかし、この方法で配布を予定している場合は、以下の説明を注意深くお読みください。

ディスク イメージ作成ソフトウェアを使用すると、製品のライセンスに問題が生じたり、インストールが不完全に終了したり、アクティベーションで問題が発生することがあります。

注: SATA RAID 環境でライセンスが不安定になったことがある場合、ディスク イメージ作成ソフトウェアを使用してオートデスク製品を配布すると、製品をアクティベーションするときに、たとえば「アクティベーション コードが制限を超える」という問題が発生する可能性があります。

マルチシート スタンドアロン製品を配布する

マスター イメージを使用してマルチシート スタンドアロン製品を複数のコンピュータに配布できます。

注: Norton Ghost を使用する場合は、-ib スイッチを使用して、作成するマスター イメージにブート セクタを含める必要があります。ブート セクタをマスター イメージの一部に含める方法についての詳細は、ご使用のディスク イメージ作成ソフトウェアを参照してください。

マスター コンピュータで一度でもオートデスク製品を実行した場合は、マスター イメージを作成しないでください。システムのクリーンアップが必要です。詳細は、「[マスター コンピュータをクリーンアップしてオペレーティング システムを復元する 25 ページ](#)」を参照してください。

マスターイメージを使用して、マルチシート スタンドアロン製品を複数のコンピュータに配布するには

- 1 マルチシート スタンドアロン製品に対するネットワーク配置を作成します。詳細は、「[新しい配置を作成する 7 ページ](#)」を参照してください。
- 2 配置からマスター コンピュータにオートデスク製品をインストールします。
- 3 マスター コンピュータで、ブート セクタを含むマスター イメージを作成します。製品を配布する前に、マスター コンピュータ以外のコンピュータで製品をテストします。他のコンピュータで製品を起動し、登録とアクティベーションを行います。ユーザは製品の登録およびアクティベーションに対して試用期間があります。
- 4 マスター イメージを目標のコンピュータに適用します。

ネットワーク ライセンス製品を配布する

マスター イメージを使用して、ネットワーク ライセンス製品を配布できます。

マスターイメージを使用してネットワークライセンス製品を複数のコンピュータに配布するには

- 1 ネットワーク ライセンス製品に対するネットワーク配置を作成します。詳細は、「[新しい配置を作成する](#)」ページを参照してください。
- 2 配置からマスター コンピュータに製品をインストールします。

注: 製品がライセンスを取得するには、ライセンス サーバが実行され、各コンピュータがネットワークに接続されていなければなりません。

- 3 製品をインストールした後、ディスク イメージ作成ソフトウェアを使用して、コンピュータのハード ドライブのマスター イメージを作成します。
- 4 マスター イメージを目標のコンピュータに適用します。

マスター イメージを復元する

次の手順は、コンピュータを再フォーマットする前に、各コンピュータの AdLM フォルダ(および、存在する場合は Product Licenses フォルダ)のコピーを、他のコンピュータまたはディスクに保存していることを前提とします。

マスター イメージを使用して製品を復元するには

- 1 アプリケーションを終了します。ここに示す手順が完了するまで、アプリケーションを再実行しないでください。
- 2 Windows エクスプローラで、AdLM フォルダを、次に示すパスから、復元するディスク以外の場所にコピーします(Windows XP の例)。
`C:\Documents and Settings\All Users\Application Data\FLEXnet`
- 3 コンピュータを再フォーマットし、マスター イメージを復元します。

注: ハード ドライブの簡易フォーマットは実行しないでください。

- 4 手順 2 で作成した AdLM フォルダを、再フォーマットしたコンピュータの元の場所にコピーします。

注: ディスク イメージを復元すると、変更されたすべてのファイルが元の状態に戻され、再び使用できるようになります。ライセンス ファイルは保護され、製品のアクティベーションを再度行う必要はありません。

マスターコンピュータをクリーンアップしてオペレーティングシステムを復元する

マスターコンピュータでオートデスク製品を既に実行している場合は、マスターイメージを作成する前に、マスターコンピュータを適切にクリーンアップする必要があります。

マスターコンピュータをクリーンアップしてオペレーティングシステムを復元するには

- 1 ブートセクタを含め、ハードドライブをクリーンアップします。たとえば、Norton の GDISK ユーティリティを使用している場合は、次のコマンドを使用します。 `gdisk 1 /diskwipe`。ここで、1 はクリーンアップするハードディスクです。

注: Norton Ghost 以外のユーティリティを使用する場合は、必ずブートセクタもクリーンアップしてください。これが実行されない場合、オートデスク製品をアクティベーションできなくなります。

- 2 新しいパーティションを作成し、復元用ディスクまたは製品メディアを使用して、オペレーティングシステムをインストールします。

インストールに関する質問

3

このセクションでは、インストールと配置に関するよくある質問を紹介します。その他のアドバイスとサポートについては、[オートデスク サポート](#)にアクセスし、製品名を選択して、製品のナレッジベースで検索してください。

ライセンスに関する質問

スタンドアロン ライセンスとネットワーク ライセンスの違いは何ですか？

スタンドアロン ライセンスは、個別のユーザを対象に1つまたは複数のオートデスク製品をサポートします。同様に、マルチ シート スタンドアロン ライセンスは、一定数のユーザをサポートします。組織内の追加のコンピュータにソフトウェアをインストールできますが、ユーザのライセンス数を超えてインストールすることはできません。

ネットワーク ライセンスは、ネットワークに接続しているユーザの最大数をサポートします。ソフトウェア ユーティリティの Network License Manager(NLM)が、購入ライセンスの最大数までユーザにライセンスを発行します。購入ライセンス数を超えると、ライセンスが NLM に返却されるまで、それ以上コンピュータでオートデスク製品を実行することはできません。

ネットワークライセンスバージョンのソフトウェアを使用する利点は何ですか？

ネットワーク ライセンスを使用すると、大規模な製図/設計機関や教室など多数のユーザをサポートする必要がある環境での、ライセンスの管理が容易になります。Network License Manager でライセンスの登録、アクティベーション、ユーザへの配布など、ライセンスを集中的に管理できます。ネットワーク ライセンスの主な利点の1つは、購入したライセンス数以上のコンピュータに製品をインストールできることです。たとえば、25のライセンスを購入し、利便性をよくするために40台のコンピュータにインストールできます。製品は、購入したライセンス数分のコンピュータで同時に実行できます。つまり、本格的なフローティング ライセンスとして使用できます。また、ネットワーク ライセンスシステムでは、ユーザは一定期間、ネットワー

クに接続していないコンピュータでライセンスを借用して使用できるように環境設定することもできます。

SAMreport-Lite とは何ですか?

SAMreport-Lite は、FLEXnetTM を使用する製品のネットワーク ライセンスの使用状態の監視を補助するレポート作成ソフトウェアです。SAMreport-Lite は オートデスク製品とともに配布されませんが、オートデスクから入手できます。SAMreport-Lite を使用すると、ソフトウェアライセンスの管理が容易になります。詳細は、[SAMreport-Lite\(英語\)](#)を参照してください。

配置とネットワークに関する質問

配置はどこに格納すればいいですか?

配置を格納するシステムのデスクトップに「配置」という名前のネットワーク共有フォルダを作成することをお勧めします。共有フォルダを作成したら、配置する製品を反映したサブフォルダ名を追加することができます。同じ製品またはスイート製品の複数の配置を作成し、異なるユーザーグループ用に環境設定する場合、これらの配置は同じ管理イメージを共有でき、ショートカットは同じフォルダに置くことができます。共有フォルダ内のサブフォルダは、すべて自動的に共有フォルダになります。

ネットワーク共有の詳細は、「[ネットワーク共有を作成する](#) 7 ページ」を参照してください。

管理イメージにすべての製品を選択するのはどのような場合ですか? また、後で製品を追加できますか?

すべての製品を配置に含めると、管理イメージが大きくなりますが、配置の修正や新しい配置の作成について制限がなくなります。[この配置環境設定に必要な製品のみを含める]チェックボックスをオンにすると、配置には使用可能な製品のサブセットが含まれるようになります。この配置に対する修正や、最初の配置に基づく追加の配置は、同じ製品セット以下に制限されます。

異なる製品を含むこの管理イメージから複数の配置を作成する予定があり、再度インストールメディアを使用したくない場合は、選択可能なすべての製品を含めることをお勧めします。使用する予定のない製品がある場合や、追加の配置を作成する予定がない場合は、製品のサブセットを選択してください。

後日、別の配置を作成して追加の製品を含めることはできますが、これを行うには、インストールメディアから新しい管理イメージを作成する必要があります。

ユーザのコンピュータの設定に関連付けられるプロファイルとは何ですか？

プロファイルは、[オプション]ダイアログボックスの[プロファイル]タブで作成されます。プロファイルには、図面ベースのシステム変数以外の、ほとんどすべての環境設定が含まれます。たとえば、サポートパス、グリップ設定、印刷設定などが含まれます。

配置プロセス中に[ユーザ設定を指定]ページでプロファイルを指定すると、その配置を使用して製品をインストールするすべてのコンピュータの標準の環境設定になります。

Service Pack を追加したり合成するとどうなりますか？

Service Pack を追加すると、Service Pack は現在の配置にのみ適用されます。Service Pack ファイルは配置に含まれており、製品が配置されてから適用されます。

Service Pack を合成すると、Service Pack は管理イメージに合成されます。いったん合成すると、Service Pack を管理イメージから除去できなくなります。

配置の作成時に、製品の環境設定パネルから Service Pack を追加または合成できます。

Service Packが使用しているソフトウェアで利用可能であるかはどこで確認できますか？

パッチまたは Service Pack が使用可能かどうかを確認するには、<http://www.autodesk.co.jp/support> にアクセスします。

MSP ファイルはどうやって解凍しますか？

このトピックは、Windows プラットフォームにのみ該当します。Microsoft パッチ(MSP)ファイルは、通常、ご使用の製品のサポート Web サイトからダウンロードできる Service Pack 実行ファイルに含まれています。実行ファイルから、MSP ファイルを解凍するには、/e スイッチを使用して Windows コマンドプロンプトから、パッチプログラムを実行します。構文は次のとおりです。

```
<ローカル_ドライブ:>¥<パッチ_名>.exe /e <ローカル_ドライブ:>¥<パッチ_名>.msp
```

ファイルが解凍される場所に特に注意してください。パッチ ファイルを使用する方法については、パッチの Readme ファイルを参照してください。

ファイアウォールに対して、ネットワークライセンスサーバをどのように環境設定すればいいですか？

ライセンスサーバとクライアントコンピュータの間にファイアウォールが存在する場合は、ライセンス関連の通信のために、サーバのいくつかのTCP/IPポートを開く必要があります。adskflex用にポート2080を、lmgrd用にポート27000から27009を開いてください。

アンインストールとメンテナンスに関する質問

既定のインストレーションの内容をどのように確認できますか？

既定のインストレーションでインストールされる内容を確認するには、製品の環境設定ページまでインストール手順を進めます。ここで選択する製品が、既定のインストレーションでインストールされます。選択した製品ボックスをクリックして環境設定パネルを開くと、サブコンポーネントと機能の既定の設定を確認できます。

機能を追加または削除するときに、インストールフォルダを変更できますか？

製品をインストールした後は、インストールパスを変更することはできません。機能を追加するときにパスを変更すると、プログラムが破損することがあるため、変更はできません。

製品をインストールした後に、ツールとユーティリティをどのようにインストールできますか？

製品メディアから再度インストーラを実行し、最初の画面で[ツールとユーティリティ]をクリックします。インストーラの手順に従って、ツールとユーティリティの選択、環境設定、インストールを行います。

製品を修復ではなく再インストールするのはどのような場合ですか？

プログラムで必要なファイルを誤って削除したり変更した場合に、製品を再インストールします。損失したファイルや変更されたファイルは、製品のパフォーマンスに悪影響を与えます。また、コマンドの実行やファイルの検索を試みたときにエラーメッセージが表示される原因になります。

インストールの修復に失敗した場合は、次善の策として再インストールがあります。

製品を再インストールする場合、製品メディアは必要ですか？

はい。製品を再インストールするときに、製品メディアを挿入するように求められます。製品がネットワーク配置からインストールした場合は、Service Packなどを追加して変更されたものではない、元の配置にアクセスする必要があります。

ソフトウェアをアンインストールすると、システムにどのようなファイルが残りますか？

製品をアンインストールすると、作成または編集したファイル(図面やカスタムメニュー)など、一部のファイルがコンピュータに残ります。

また、ライセンスファイルもコンピュータに残ります。同じコンピュータに再インストールする場合、ライセンス情報は有効なままなので、再度製品のアクティベーションを行う必要はありません。

Service Pack

一般に多数のコード修正を含む重要なアプリケーションパッチに対するオートデスク用語。

アクティベーション

オートデスクソフトウェア登録手続きの一部で、これにより、製品のエンドユーザライセンス使用許諾同意書に基づいて製品を実行することが許可されます。

インストレーションイメージ

1つまたは複数の MSI ファイルとその関連データ ファイル、関連するトランスフォーム、追加のユーザ固有のカスタム ファイル、プロファイル、レジストリ設定からなる配置。

管理イメージ

配置プロセスにより作成された共有ファイル リソースのコレクションで、プログラムをネットワーク コンピュータにインストールするために使用されます。

言語パック

インストールされるファイルのセットで、一部のオートデスク製品で使用されません。ユーザは言語パックで指定された言語を使用して、アプリケーションで作業できるようにします。

言語ファミリ

通常は地理的な分類に基づいて、一緒に配布される言語のセット(中核製品と言語パック)。すべてのオートデスク製品についてこの方法で言語が配布されるわけではありません。

サイレントモード

一切のユーザ入力が必要なインストール。ユーザの関与を必要とするダイアログボックスはまったく表示されません。

ネットワークライセンスインストール

複数のコンピュータに製品をインストールし、ライセンスの配布は Network License Manager で処理されるインストール。

配置

ネットワーク上の1つまたは複数のコンピュータにオートデスク製品をインストールする処理。

パッチ

アプリケーションに対するソフトウェア更新。

ホットフィックス

少数のコード修正を含むマイナーなアプリケーションパッチに対するオートデスク用語。

マルチシートスタンドアロンインストール

1つのシリアル番号を使用して、製品の複数のスタンドアロンシートをインストールするインストール。

ライセンス転送ユーティリティ

オートデスクサーバを使用して、コンピュータ間でオートデスク製品のスタンドアロンライセンスの転送に使用するツール。転送元と転送先のコンピュータの両方でインターネット接続が必要です。